

新潟県リコーダー教育研究会 会報
平成23年2号 10月1日(土) 発行



さえずり

新潟県リコーダー教育研究会 会長 小池 純夫
(南魚沼市立大崎小学校 教頭)

リコーダーの栄枯盛衰

副会長 前田 英也
(長岡市立越路小学校長)

先史時代の石笛や土笛は別として、リコーダーはかつてチャールトン・ヘストンが映画で扮した「エル・シド」が活躍した中世の時代(11世紀頃)、主に教会で声楽の脇役として、奥ゆかしく使われていたようです。その後、レオナルド・ダ・ビンチのルネサンス時代(15世紀末頃)にはその種類が増え、続くバロック時代に全盛期を迎えます。しかし、後発のフルートやトランペット等に押されて忘れ去られ、20世紀になって復活し今日に至っています。



教育楽器としてのリコーダーの歩みも、また大きな変遷がありました。日本では、1960年代以降、教育楽器として全ての小学校で使用が始まりました。1964年に3年生だった私は、リコーダー指導を受ける側の草分けだったのです。ただし、当時の呼び名は「スペリオパイプ」。上半分が黒、下半分が肌色で、微妙なカーブのあるツルンとした縦笛でした。日本中の学校で指導された楽器であるリコーダーですが、指導要領の改訂により必修ではなくなりました。それでも学校現場では、まだまだリコーダーが重要な位置を保っています。

私たち新潟県リコーダー教育研究会の諸事業も、やはり時代とともに変遷しています。私が教師になって2年目の夏、2泊3日の湯沢の合宿(夏季リコーダー研修会)に誘われて出かけた時のあの衝撃。いびつに曲がった階段を昇った先に目にしたのは、100畳を超す大広間にびっしりと並んで食事を摂る合宿参加者の皆さん。壮観でした。時の流れとともに合宿の日数も人数もスリムになりましたが、参加の皆さんのリコーダーにかける思いの熱さは変わりません。また、これまでは授業の必要に迫られて受講する方も多かったでしょうが、必修でなくなったこれからは、リコーダーの音が好きだから、リコーダー合奏の素晴らしさを子どもたちに是非伝えたいからという方が多くなっていくのでしょうか。原点回帰という気がします。

何にでも栄枯盛衰はありますが、より多くの方々とリコーダーの楽しさや素晴らしさを一緒に味わいたいと、改めて強く思っています。



夏季リコーダー研修に参加して

湯沢町立三国小学校 佐藤 家博
(金子先生 合奏コース)

夏季リコーダー研修会に、今回初めて参加させていただきました。

ただ「リコーダーの研修ってどんなことをするんだろう」という思いで申し込んだのですが、参加されていた先生方のレベルの高さ、志の高さに圧倒されました。そのような中で金子先生のご指導は、リコーダー初心者の私にとっても大変わかりやすいものでした。楽譜に食らいつくのに必至でしたが、学ぶことが多くありました。



たとえば「同じ四分音符でも、曲調やリズムによって長さが違うことがある」というのは、リコーダーの演奏のみならず、歌唱や他の楽器の演奏など、さまざまな場面に言えることだと思います。

また、リコーダーの音を聴く耳も少し良くなりました。これまでは運指が合っていて、その音が出ていればよし、だったのですが、少し気をつけるだけで「表現する音」になることがわかりました。このことは、さっそく学級の音楽の時間に生かしています。

私自身、指揮者を囲んで演奏するというのが10年ぶりのことでした。みんなで一つの音楽を表現することの楽しさ(+緊張感)を久々に実感することができました。またさらに、音楽が好きになったように思います。

素晴らしい研修の機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

夏季研修に参加して

三条市立大崎中学校 小倉生里子
(北村先生 アンサンブルコース)

今年度、リコーダー夏季研修に初参加しました。私は中学校で吹奏楽部顧問をしており、自分自身はオーケストラに所属し、トランペットを演奏しています。金管アンサンブル等でルネサンス舞曲やバロックのアレンジ作品を演奏する機会が度々あり、それらの音楽をリコーダー奏者の方から学んでみたいという思いで参加しました。



学校の音楽の授業くらいでしかリコーダーに触れていない私にとって、講師の北村先生、参加者の皆さんの美しいリコーダーの音色に感動。アンサンブルコースでは、ずらりと並んだ楽譜を次から次へと演奏しました。技量の足りない私はついていくのに必死で、「来るところ間違えたかな・・・。」と思いつつも「アンサンブル、楽しいなああ〜。」と実感。リコーダーの美しい響きに浸り、北村先生の音楽の話に目からウロコ。新たな発見が沢山あり、自分の音楽の世界を少し広げることのできた、有意義な2日間でした。この研修で得たことを指導に活かし、今度は生徒が「アンサンブル、楽しいなああ〜。」と感じてほしいと思いながら日々奮闘中です。

東日本大震災の被災地で演奏して

新潟県リコーダー教育研究会 児玉 禎明

今年3月11日の東日本大震災につきまして被災地の皆様方へ心よりお見舞い申し上げ、お亡くなりになられました方々のご冥福と一日も早い復興をお祈りしております。

新潟県リコーダー教育研究会が毎年主催している「夏季リコーダー研修会」に、以前、宮城県石巻市から坂本忠厚先生という方が参加してくださいました。その後、私はその方との交流を温めておりましたが、この度の震災で、石巻市も甚大な被害を受けてしまいました。そんな中、坂本先生から、石巻市の避難所でリコーダーの慰問演奏をしてくれないかと声をかけられました。私も、平成16年の中越大地震で被災したので、お気持ちが大変よくわかり、一つ返事で快諾いたしました。そして、6月18日(土)、石巻市の避難所で「東日本大震災復興リコーダー演奏会」という催しでリコーダーを演奏させていただくことになりました。

当日午前中は、ボランティアの方々とともにお手伝いをし、お昼は被災者の皆さんと一緒に炊き出しの昼食をご馳走になりました。午後は、「日和が丘公園」というところに案内していただきました。そこからは、大地震と津波で家が流されてしまった海岸沿いの地域がちょうど一望できるため、多くの方々が訪れて、亡くなられた方々のために献花がされてありました。自身、あまりの悲惨な状況を目の辺りにし、言葉を失ってしまいました。

リコーダー慰問演奏会は避難所へ宿泊の方々がいらっしゃる1～3階の各階で夕方行いました。最初は、私が独奏とMIDI伴奏で、「サザエさん」、「仮面ライダー」、「日本の四季 メドレー」、「陽気なポルカとワルツ」、「NHK連続テレビ小説『てっちゃん・おひさま』のテーマ」、「青い山脈」、「斎太郎節」、「大きな古時計」の8曲を演奏いたしました。「仮面ライダー」は、原作者の石森章太郎氏が石巻市の出身なので。「日本の四季 メドレー」は、クライネからバスの6本を使い、順に春の小川、チューリップ、花、茶つき、もみじ、雪の降る街を。「陽気なポルカとワルツ」は、吹奏楽作品コンクールで入賞した自作の曲です。後半は、坂本先生と一緒に、「津軽海峡冬景色」、「コンドルは飛んで行く」、「ふるさと」の3曲を演奏しました。聴いてくださった避難所の皆様は、あらゆる世代の方々がいます。一般によく知られている曲を中心にプログラムを編成しました。演奏会はお陰で大反響でした。涙を流しながら聴いてくださった方もいたとのことで喜んでいただけて、嬉しく思いました。是非また聴きたいとの要望が多く寄せられたとのことでした。しかし、現在は避難所の皆さんが仮設住宅などへ移られることが決まり避難所が閉じられることになったため、今後は仮設住宅で演奏させていただく方向で話を進めています。演奏させていただいた私は、これほど有り難いことはない、大変嬉しく感謝しております。

改めて、避難されていらっしゃる皆様方とまたお目にかかれることを楽しみにしています。

<演奏の様子>



< 避難所の様子 >

